

公表	事業所における自己評価総括表		
----	----------------	--	--

○事業所名	みらいキッズ（北区教室）		
○保護者評価実施期間	2024年8月19日 ~ 2024年9月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数) 47
○従業者評価実施期間	2024年8月19日 ~ 2024年9月20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、将来を見据えた力を育んでいく視点を大事に支援を展開していること。	学習、運動、ドッジボール、ゲーム、公園遊びなどを集団を意識しながら提供。そのなかで、将来的に必要となる力（社会性、人との距離感、生活力、自己コントロール力など）を育んでいくよう、利用者の特性に合わせて個別の指導・支援を行っている。	集団と個別の活動の意義、利用者に求める力、保護者の願いなど、支援する指導員が同じ方向性を目指せるようすり合わせ。個別支援計画のより深い共有方法の吟味。
2	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っていること。	子どもの状態の共有、保護者からの相談など、密に行えるよう面談時以外でも電話や連絡帳を通し細やかに対応している。	子どもの発達や課題に対して適切な助言ができるよう指導員全体の質の向上を目指す。
3	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成され、それに沿った支援が行われていること。	経験豊かな児童発達支援管理責任者が保護者と面談しニーズや課題を引きだし個別支援計画を作成している。	児童発達支援管理責任者の育成。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の連絡帳でのやりとりのウエイトが大きく、定期的に通信等を発行したりHPやSNS等を活用したりという他の手段で利用者の活動の様子を発信しきれていないこと。	新たな取り組みに対して、必要性は感じながらも、再優先事項とならず後回しになってしまっているため。	・どういう形なら、どういうスパンならやれるのかを計画するところから始める。 ・担当者を決める。
2	放課後児童クラブや児童館との交流、地域住民との交流、保護者同士やきょうだい同士の交流など、研修や交流の場を企画しきれていないこと。	事業所発信の研修や交流の場が企画しきれていない。	・どういう形なら可能かを計画するところから始める。 ・担当者を決める。
3	安全計画、業務継続計画（BCP）及び各種マニュアルを備え、発生を想定した訓練を実施しているが、それが明確に保護者に周知されていないこと。	初回にマニュアルなどの説明を行っているが、それを定期的に確認し合う場を持てていないため。	・定期的に、確認する機会をもつ。 ・HPの活用など。